

22 総合的な学習を経験した児童の口腔内状況と今後の課題

計良倫子

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 総合的な学習, 小学校, 歯肉の炎症

はじめに

本学では、12年に亘って、某小学校の全学年において歯科保健指導を実施してきている。平成24年度からは、3年生の総合的な学習の「歯の健康についての調べ学習」への支援も行い、児童たちの口腔内へ意識の向上に尽力してきた。平成28年3月、最初に総合的な学習を実施した児童たちが6年生となり卒業を迎えた。3年生から各自の口腔内に興味を抱き、様々な学習を実施してきた児童たちの意識や口腔内が、その後の3年間でどのように変化したのかについて調査を行った。

対象および方法

対象は平成28年3月に、新潟市立某小学校を卒業した児童56名である。平成24年9月および28年1月に、上下顎前歯部唇面(12~24, 42~32)の口腔内写真撮影を行った。撮影した写真より、プラーク付着状況および歯間乳頭部の炎症について調べた。

結果および考察

1. プラーク付着状況について

プラーク付着が見られなかった者は、上顎前歯部唇面では3年生が33.9%、6年生が42.9%、下顎では3年生が60.7%、6年生が46.4%であり、上顎において、6年生のほうが9%増加した。これは、前歯の交換期を過ぎて歯列不正が減少し、歯面へ確実に歯ブラシを当てることができるようになったことや、毎年実施している歯科保健指導により、ブラッシング技術が向上したためと考えられる。また、3年生で行った総合的な学習において、う蝕について調べた児童が多かったことから、プラークの有害性を理解したことも要因の1つと考えられる。

2. 歯間乳頭部の炎症について

歯間乳頭部に炎症が見られなかった者は、上顎で

は3年生が10.7%、6年生では23.2%、下顎では3年生が1.8%、6年生が17.9%で、下顎では有意に増加した($p < 0.05$)。部位別歯肉の炎症の変化では、3年生で下顎に歯肉炎症の見られた者が90%以上であったが、6年生では下顎前歯部唇面の全部位(42-41, 41-31, 31-32)において、それぞれ14.3%、17.8%、26.8%減少した。これは、3年生で口腔内について自ら学び、正しいブラッシング方法を身につけたことや、フィードバック時に使用した、個々の口腔内写真より、各自の歯肉炎症部位について理解したためと思われる。

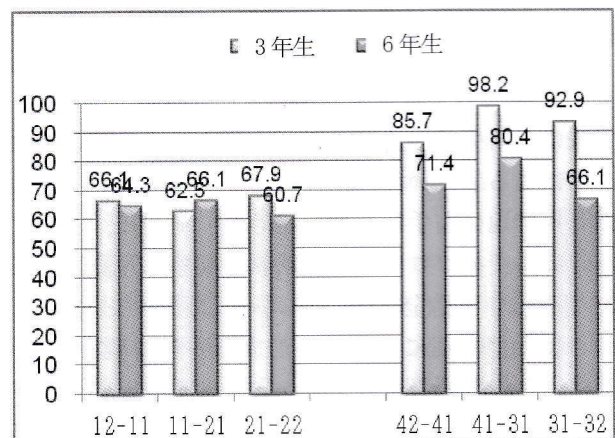


図 部位別歯肉有所見者数の比率

6年間の歯科保健指導および総合的な学習の時間を経験しても、6年生でのプラーク付着量が最大値の2であった者が、上顎では17.9%、下顎では3.6%であったことより、今後は、全体への指導や支援に加え、個人的な対応や保護者への働きかけをしていく必要がある。

まとめ

3年生に行った、総合的な学習において自らの歯や口腔に対する理解を深めたことが、6年生に至るまで口腔清掃習慣の意識を保ち、プラーク及び歯肉炎症の減少に繋がった。